

# “みんなの” 少子化対策（概要）（案）

「ゼロから考える少子化対策PT」  
第10回会合

資料2

～ 子どもへの投資が未来を支える 子育てセーフティネットの強化を！ ～

🌸 「ゼロから考える少子化対策プロジェクトチーム」 提言 🌸

## 結婚・出産・子育ての危機・・・時代は変わった

「家庭」「地域」「職域」の果たしてきた結婚（縁結び）機能や子育て支援機能が低下。社会全体の仕組みとして、「子育てセーフティネット」を強化し、再構築する必要。

### 希望しても結婚できない迷路と壁

- ・ 30～34歳女性の未婚率: 7.7%(1975年) 32.0%(2005年)
- ・ 男性の生涯未婚率(50歳時未婚率): 2.12%(1975年) 15.96%(2005年)
- ・ 30～34歳男性の結婚率: 正規社員6割に対し、非正規社員は3割(2002年)

### 清水の舞台から飛び降りる覚悟が必要な出産

- ・ 分娩取り扱い施設: 5,924施設(1984年) 2,933施設(2005年)
- ・ 仕事をしている女性の7割が出産前後で離職(2001年度)

### 綱渡りの子育て

- ・ 共稼ぎ家庭の割合は54%(2007年)、保育所待機児童は2万人(H20.4)
- ・ 子育ての負担感「大」と回答した割合: 共働き29.1%、片親のみ就労45.3%(2000年度)

## 子どもの笑顔あふれる日本社会の実現を

「希望」がかなえられ、「活力」があり、子どもの笑顔があふれる社会を目指す。

結婚、出産、子育ての「希望」がかなえられる  
貧困や格差によってあきらめることがない  
生き活きとした経済と命の営みがつづく

少子化の流れを反転させ、人口の急激な減少スパイラルからの脱却を図り、安定的で持続可能な社会を目指す。

## 3つの「ない」を解消するために・・・

### 関心（合意）がない

～ 子育て当事者だけが苦しんでいる。



### 国民すべての“みんなの少子化対策”を目指す

みんなが具体的な行動を起こす。  
利用者の視点に立って見直す。



### 広がりがない

～ 対症療法だけでは不十分。



### ライフサイクルを通じた総合的な支援を目指す

なぜ結婚できないのか、からスタートする。  
子どもが主人公。



### 財源が足りない

～ 家族関係施策への予算が不十分。



### 未来の子どもたちのためにはみんなで負担を分かち合う

消費税1%分を 子どもたち のために。



	(日本)	(イギリス)	(フランス)	(スウェーデン)
家族関係費用の対GDP比(2005年)	0.81%	3.20%	3.02%	3.17%
国民負担率(2005年)	38.3%	48.3%	62.2%	70.7%

# < これからの少子化対策・・・10の提言 >

## 1. 少子化対策の第一歩は“恋愛・結婚”から

少子化の背景にある恋愛・結婚にまで視野を広げて政策的対応を図る。

## 2. 若者が安心して家族をもてるようにする

家族形成可能な就労・経済的自立への支援など包括的な若者支援に取り組む。

## 3. 妊娠や家族形成に関する認識を深める

学校段階から妊娠や不妊治療について正しい知識を得られるようにする。

## 4. 厳しい経済情勢の今だからこそ働き方を変える

仕事と生活を調和させるメリハリのある働き方に向け具体的行動を起こす。

## 5. 幼児教育と保育の総合的な検討を

幼児教育の無償化や保育制度改革は利用者の視点に立つて行う。

## 6. 子どもの貧困と格差の連鎖を防止する

ひとり親家庭（母子家庭・父子家庭）等への効果的な支援を行う。

## 7. 家計の過重な教育費負担の軽減を

就学援助、授業料減免、奨学金等により家計の教育費負担の軽減を図る。

## 8. 社会全体で子育てを支える

人づくり、まちづくりを通じて家庭や地域の子育て支援機能を強化する。

## 9. 子どもが病気になったときにも安心を

子どもが病気になったときの親の不安の解消と病児保育の充実を図る。

## 10. 消費税1%分を 子どもたち のために

安定的な財源を確保して少子化対策を拡充する。

# < “ みんなの少子化対策 ” のためのメッセージ >

1 . 結婚をすること、そして子どもを持つことには、苦しいことも、楽しいこともあります。 **私たちが成長させる貴重な経験**だと考えましょう。

2 . 妊娠・出産は、母親や父親の人生にとって、もっとも喜ばしい出来事の1つです。生まれてくる子どもたちを歓迎できるよう、 **安心して妊娠・出産のできる家庭、地域、社会**にしていきましょう。

3 . **子どもは未来の社会への希望**です。子どもたちの健やかな成長に向けて、地域で一人でも多くの大人があたたかく見守りましょう。すべての子どもたちに、笑いかけ、声をかけ、助け合い、そして安全を守りましょう。

4 . 子育ての悩みや不安はひとりで抱え込まずに誰かに聞いてもらいましょう。家庭でも、地域でも、職場でも、 **「お互いさま」の知恵と工夫で支え合い**、明るく乗り切っていきましょう。

5 . 家庭の状況や両親の働き方によらず、子どもたちが健全に育つよう、保育所、幼稚園などの施設のほか、子育て支援拠点、地域の子育て支援ネットワークの構築、子育てボランティアなど、 **すべての子どもが安心して過ごせる環境づくり**を進めていきましょう。

6 . **教育は子どもたちの未来の成長への投資**です。未来への責任を果たし、すべての子どもが、希望する教育を十分に受けることができるよう、環境づくりを進めていきましょう。

7 . 長時間労働をやめ、メリハリのある働き方をして家族と有意義な時間を過ごしましょう。 **とくに父親が家事や育児**に積極的に関わりましょう。

8 . **仕事と生活が調和できる職場の雰囲気づくり**を進めましょう。家庭と生活を大切に人は、仕事もできる人です。育児休業もキャリアのひとつとしていしましょう。

9 . **若い世代や子どもの立場**で考えてみましょう。若い世代や子育て世代が今、何に困っているのか、子どもが何を考えているのか、注意深く、謙虚に耳を傾け、世の中の仕組に反映していきましょう。

10 . 私たち大人はすべて、 **成長したあとの子ども**です。子どもだった自分たちを成長させてくれた大人に感謝し、そして、その大人が私たちの子ども時代に行ってきたことを、今こそ、恩返しすべく、子どもたちに働きかけましょう。